

スマイル通信

～ 外来新聞

2015.年 4 月

当院は「質の高い医療サービス」を信念に、最新医療を取り入れた医療を提供し、地域の皆様に信頼される病院でありたいと考えています。

外来新聞「スマイル通信」が皆様のお役にたてるよう、今後も情報を発信させていただきます。

今年から当院のホームページをリニューアルいたしましたので、ぜひご覧下さい。

お知らせ

4月1日から泌尿器科医師が交代となりました。

診療担当医

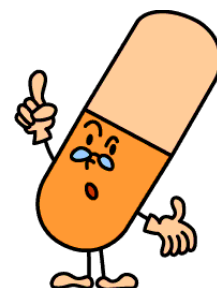
		月	火	水	木	金	土
午前	1診	原	原	原	原	原	田中
	2診	宮本			吉矢		
午後	1診	田中	原	田中		原	
	2診			吉矢			

はじめまして。泌尿器科医の田中幹人と申します。
西脇市、三木市、小野市、尼崎市の病院を経て、ここ神戸の当院へ赴任してきました。
患者さまのお役に立てるよう精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。



田中 幹人医師

おしっこに影響のあるお薬について



おしっこが出にくい、おしっこが近い

…そんな症状はありませんか。

このような症状は、年のせいばかりとは限りません。

大きな病気がその背景にあるかも知れません。

また、こんな症状を引き起こす原因の一つとして、服用している薬の副作用の可能性も考えられます。

服用している薬がある方で、気になる症状がある場合は、医師・薬剤師に相談して下さい。

～・～・そこで今回は、こんな症状を引き起こしやすい薬について紹介します。～・～・

【排尿障害を起こしやすい主な薬剤とその作用】

◆ 頻尿・尿失禁など

＜原因＞膀胱（排尿筋）が過剰に収縮したり、尿道（括約筋）が弛緩するため。

催眠・鎮静・抗不安薬、アルツハイマー型認知症治療薬、中枢性筋弛緩薬、前立腺肥大による排尿障害治療薬、抗がん薬、狭心症治療薬、抗うつ薬 など。

◆ 排尿障害、尿閉など

＜原因＞膀胱（排尿筋）が弛緩したり、尿道（括約筋）が狭くなるため。

鎮痙薬、消化性潰瘍薬、抗不整脈薬、抗アレルギー薬、三環系抗うつ薬、抗精神病薬
頻尿・尿失禁治療薬、抗パーキンソン薬、中枢性筋弛緩薬、麻薬、

一般用医薬品（OTC）の総合感冒薬・鼻炎薬、抗アレルギー薬、鎮痙薬、胃腸薬 など。

ただし、上記のお薬で必ずこれらの症状が出るということではありません。

また、薬を飲むことによって、尿の色が変わることがあります。

その原因は、薬そのものの色や、薬の代謝物（体の中で変化したもの）によって尿の色が変化するためですが、問題はありません。

そのような薬が処方された場合は、薬剤師から尿の色の変化について事前に説明され、薬局がお渡しする薬の説明書（薬剤情報など）にも記載してあります。

尿の色	薬の名前（主なもの）
黄色	ビタミンB2製剤
黄褐色 又は 赤色	センノシド製剤（下剤）、キネダック、サラゾピリンなど
赤～橙赤色	セフゾン、リファンピシン
黄褐～茶褐色、緑、青	ミノマイシン
珀色又は黄緑色	オダイン
黒色	ネオドパストン

ただし、病気や薬の副作用によっておしっこの色が変わる場合があります。

* 赤っぽい場合

⇒ 尿路(腎臓～尿管～膀胱～尿道など)のどこかで出血している可能性があります。

* 白く濁っている場合

⇒ 尿路のどこかで感染が起こっている可能性があります。

* 褐色の尿が出て、筋肉の痛み、脱力感などがある

⇒ 薬の副作用の可能性ががあります。

これらの変化が見られた場合は、受診しましょう。



お薬手帳は忘れずに持参してください。



● 当院最寄りの交通機関の地図です。

各鉄道の時刻表は、玄関に表示してありますので、ご利用ください。

